

## 低夜温管理でも収量が多いスターチス新品種の紹介

和歌山県農業試験場 暖地園芸センター  
主査研究員 岡本 崇

### 〇はじめに

本県のスターチスは、出荷量が全国1位の品目で日高地域を中心に産地が形成されています。近年燃油価格が高騰する中で、加温コストを削減するための低夜温管理が普及し、需要期である3月までの収量が減少することが問題となっています。そこで、低夜温管理栽培においても収量性が高い新品種を育成したので紹介します。

### 〇‘紀州ファインライラック’

がく色が淡紫色で、花房は丸味がありやや小さめです。切り花長は対照品種の‘アナブルー’や‘紀州ファインラベンダー’よりも短く、茎径もやや小さいですが、



写真1 ‘紀州ファインライラック’

花房数、分枝数は対照品種と同程度です(表1)。年内早くから採花でき、切り花本数は対照品種の1.4~1.9倍と非常に多いです(図1)。

### 〇‘紀州ファインオーシャン’

がく色が淡青紫色で鮮やか、花房が大きく、ボリュームがあります。切り花長は対照品種の‘アナブルー’や‘紀州ファインラベンダー’よりもやや短いです。花房数、分枝数は対照品種に比べて少ないですが(表1)、年内早くから採花でき、切り花本数は対照品種の1.2~1.7倍と多いです(図1)。高温期に花房が白くなりやすいので、低温期中心の作型向きです。

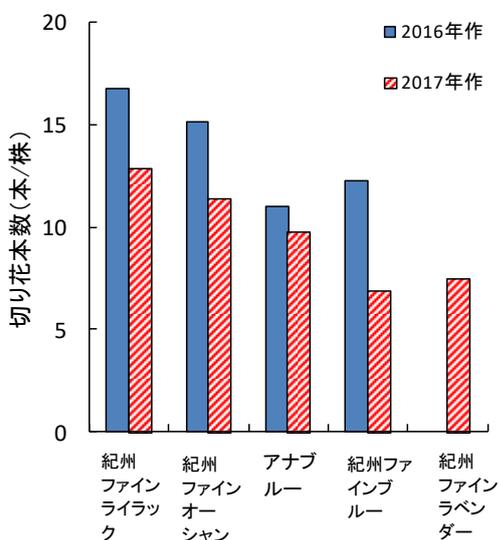


写真2 ‘紀州ファインオーシャン’

表1 ‘紀州ファインライラック’と‘紀州ファインオーシャン’および対照品種の切り花品質

栽培年	系統・品種	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	分枝数 (本)	花房数 (個)
2016年	紀州ファインライラック	72.2	5.8	6.7	11.9
	紀州ファインオーシャン	71.6	5.3	5.2	8.2
	アナブルー	87.1	6.5	6.0	11.5
	紀州ファインブルー	84.1	6.1	6.0	10.4
2017年	紀州ファインライラック	77.9	5.9	6.7	12.5
	紀州ファインオーシャン	83.1	5.9	5.7	9.2
	アナブルー	91.1	6.6	6.5	12.8
	紀州ファインラベンダー	88.4	6.3	6.7	12.0
	紀州ファインブルー	96.3	7.4	6.3	11.2

注)2016年:9月7日に定植、切り花調査は10月31日~2017年3月16日まで 2017年:9月6日に定植、切り花調査は11月8日~2018年3月14日まで  
定植から2週間株養成のため抽苔花茎を除去、冬季加温設定温度1℃で管理



○おわりに

紀州ファインシリーズには、ブルー系品種として、この新品種のほか‘紀州ファインラベンダー’‘紀州ファインブルー’があります。この2品種は新品種と比べて切り花長が長く、ボリュームがありますが、切り花本数は少なくなります(表2)。経営目標に応じた品種を選定してください。

図1 ‘紀州ファインライラック’と‘紀州ファインオーシャン’および対照品種の切り花本数  
注)栽培概要および調査期間は表1と同様

表2 ブルー系県オリジナル品種の特性比較

	草丈	花房の大きさ	花房数	切り花本数	秀品率
紀州ファインラベンダー	中~高	中	多い	中	中~高
紀州ファインブルー	高	大	多い	やや少	高
紀州ファインライラック	やや低	やや小	多い	多い	やや低~中
紀州ファインオーシャン	中	大	中	多い	中

